



# まなび通信

京都府中丹教育局  
第195号  
令和6年1月15日

「みんなの笑顔」特別支援教育研修会 令和5年11月13日(月)実施

## 誰一人取り残さない特別支援教育を推進するため、校内委員会の機能強化を！

特別な支援を必要とする児童生徒は通常学級にも多く在籍しています。どの学校においても、教室で困っている児童生徒を誰一人取り残さない特別支援教育を組織的に推進することが重要です。そこで、今回の「みんなの笑顔」特別支援教育研修会では、京都教育大学から小谷裕実教授をお招きし、各校の特別支援教育コーディネーターを対象に、特別な支援を必要とする児童生徒の支援の在り方や特別支援教育コーディネーターの役割について研修を深めました。



京都教育大学 小谷裕実 教授

### まなび1 「機能的な校内委員会の実施」

誰一人取り残さない広い支援を行うためには、校内委員会を機能させていくことが大切です。以下のチェック項目を参考に、自校の校内委員会は機能しているか、一度見直してみましょう。

※**太字**の部分は機能的な校内委員会につながる重要な視点です。

#### 校内委員会の機能強化に向けて

#### 気付く



<校内委員会>

- 校内委員会で報告する
- 情報を共有する
- 問題解決の切り口を探す** ← 専門家の参加
- 優先順位をつける
- 担当者を決める

SC,SSW,SSC,  
校医など



方針と分担に沿って支援を行う



<校内委員会>

- 結果を報告する
- 方向性を再検討する**

取組がこま  
でつながるこ  
とを目指す

### まなび2 「個別対応の前に大切なこと」

個別対応を考えることも大切ですが、その前に、ユニバーサルデザインの視点での環境整備や授業改善を目指すことは、子どもの困り感を軽減する上でとても有効です。

支援が必要な子どもたちへの指導の工夫は、みんなの「分かる」につながります。

中丹教育局発行の「みんなの笑顔」には、「分かる授業づくり」について、特別支援教育の視点からヒントになる取組や工夫がまとめられています。

全教職員が校内の特別支援教育を担う一員だという意識を高めていく必要があります。



みんなの笑顔 QRコード

#### 【主な内容】

- 1 学習基盤を育てる
- 2 集中できる授業を展開する
- 3 指導技術を高める



#### 参加者の振り返りより

- ・「支援を必要とする児童はどの教室にもいる」という視点をもつことの大切さを学んだ。
- ・もう少し「小回り」が効く校内委員会を、短期のスパンで設定できるように考えたい。
- ・子どもに関わる教師一人一人のスキルアップを目指すことが、支援の必要な子どもへのより良い指導につながる。
- ・「みんなの笑顔」リーフレットは職員全体で確認したいと思った。
- ・ユニバーサルデザイン授業をはじめ、「支援」を特別なものではない、一般的な指導として充実させていくことが必要だと感じた。
- ・今年度初めて特別支援教育コーディネーターをすることになり、手探りだった。今回の研修会で求められる役割を確認できて良かった。できれば1学期にこの研修会に参加したかった。